

クズ(葛)の花の抗がん作用、抗糖尿病作用、その他

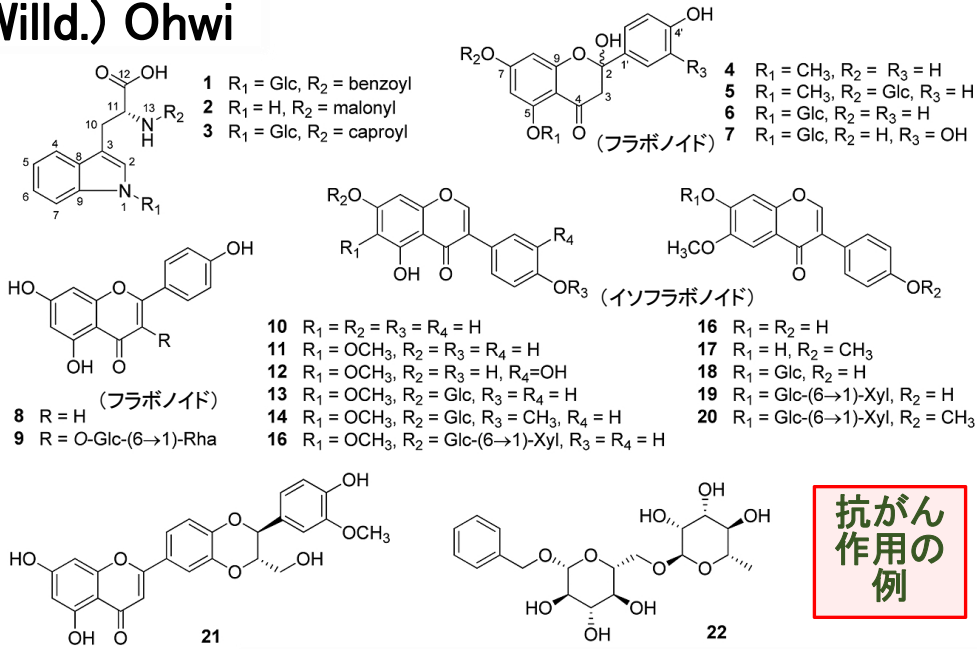
クズ、*Pueraria lobata* (Willd.) Ohwi



クズ(葛)は「秋の七草」の一つ



(出典: 熊本大学薬学部 薬用植物園)



(原図の出典: Plants 2022, 11(13), 1651; <https://doi.org/10.3390/plants11131651>)

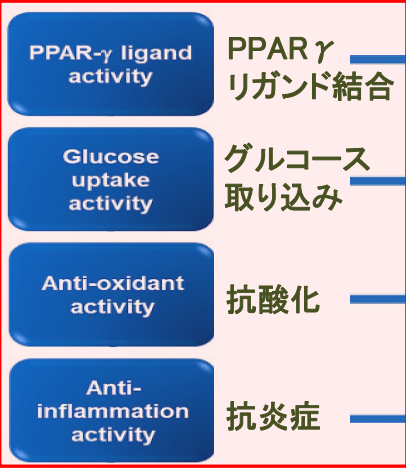
↑ クズの花から検出された物質群。そのうち、アピゲニン (8)、ゲニステイン (10)、テクトリゲニン (11)、イリリン D (12)、イリソリドン 7-O-グルコシド (14)、グリシテイン (16)、アフロモシン (17)、(-)-ヒドノカルピン (21) は →

根を掘り起こすのは大変であるが、花を摘むのは簡単である。その花に、驚くべき有効性が見出されている。

抗糖尿病作用の例



クズの花



Anti-diabetic activity

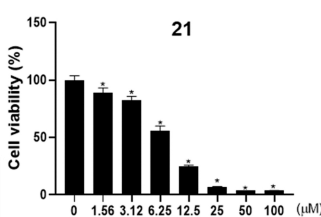
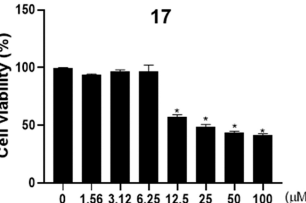
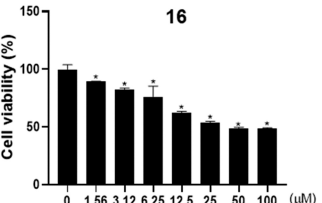
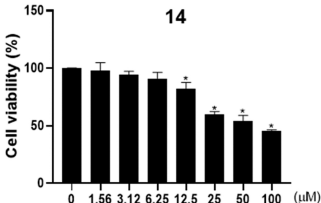
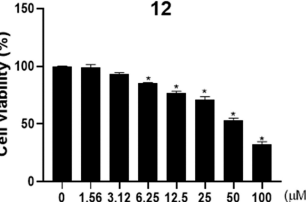
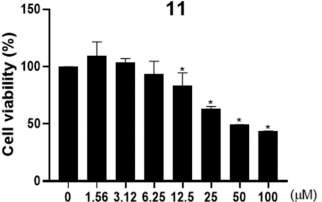
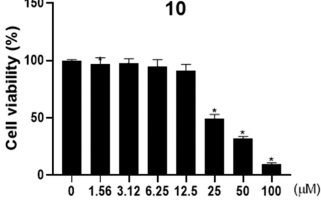
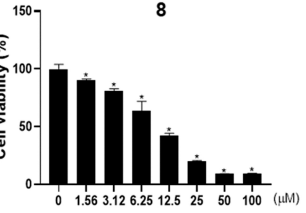
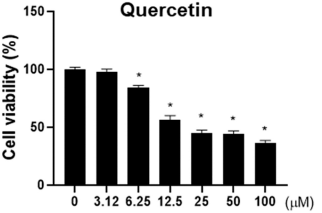
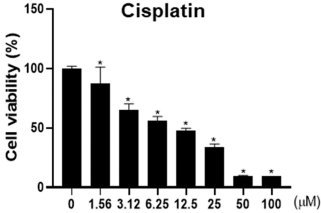
抗糖尿病

(原図の出典: Molecules 2020, 25(17), 3970; <https://doi.org/10.3390/molecules25173970>)

<作成: stnv基礎医学研究室>

クズの花に特に多く含まれる有効性物質を大まかに分類するならば、フラボノイドとイソフラボノイドである

その他:
二日酔い軽減作用 (アセトアルデヒド低減)
肝機能改善作用
抗肥満作用
抗子宮内膜症
エストロゲン様活性



クズの花に含まれるこれらの物質は、正常細胞(ヒト卵巣表面上皮細胞株)には毒性を示さなかったが、ヒト卵巣癌細胞株A2780に対して有意な細胞毒性を示した。